

3. 導入目標 (2020年)

「重点政策編」の終期にあたる平成32年度(2020年度)時点での「導入目標量」を設定します。なお、導入目標量の設定にあたっては、平成42年度(2030年度)の導入目標量をベースとして、個々のエネルギー種別ごとに、リードタイム(計画～稼動までの期間)を考慮に入れて試算しています。

「導入目標量(2020年)」一覧表

| 1. 発電 | | | | | |
|---------|----------------------------|------------|------------------------------|------------|-------|
| | 現在導入量 (2014年) | | 導入目標量 (2020年) | | 伸び率 |
| | 設備容量 (発電電力量) | 熱量換算 | 設備容量 (発電電力量) | 熱量換算 | |
| 太陽光発電 | 37.3 万kW (43,357 万kWh) | 1,560.9 TJ | 112.1 万kW (130,801 万kWh) | 4,708.8 TJ | 3.0 倍 |
| 住宅 | 13.7 万kW (14,404 万kWh) | 518.5 TJ | 38.0 万kW (39,925 万kWh) | 1,437.3 TJ | 2.8 倍 |
| 非住宅 | 23.6 万kW (28,954 万kWh) | 1,042.3 TJ | 74.1 万kW (90,876 万kWh) | 3,271.5 TJ | 3.1 倍 |
| 風力発電 | 0.2 万kW (263 万kWh) | 9.5 TJ | 0.2 万kW (263 万kWh) | 9.5 TJ | 1.0 倍 |
| 小水力発電 | 0.0 万kW (0 万kWh) | 0.0 TJ | 0.1 万kW (633 万kWh) | 22.8 TJ | - 倍 |
| バイオマス発電 | 0.5 万kW (3,312 万kWh) | 119.2 TJ | 1.0 万kW (6,938 万kWh) | 249.8 TJ | 2.1 倍 |
| 合計 (A) | 37.9 万kW (46,932 万kWh) | 1,689.6 TJ | 113.3 万kW (138,635 万kWh) | 4,990.8 TJ | 3.0 倍 |

| 2. 熱利用等 (熱利用・燃料製造) | | | | | |
|--------------------|---------------|----------|---------------|------------|-------|
| | 現在導入量 (2014年) | | 導入目標量 (2020年) | | 伸び率 |
| | 原油換算 | 熱量換算 | 原油換算 | 熱量換算 | |
| 太陽熱利用 | 1.2 万kl | 462.1 TJ | 1.7 万kl | 641.5 TJ | 1.4 倍 |
| 地中熱利用 | 0.0 万kl | 0.0 TJ | 0.9 万kl | 349.5 TJ | - 倍 |
| バイオマス熱利用 | 0.2 万kl | 78.7 TJ | 0.3 万kl | 114.6 TJ | 1.5 倍 |
| バイオマス燃料製造 | 0.04 万kl | 16.3 TJ | 0.1 万kl | 45.8 TJ | 2.8 倍 |
| 合計 (B) | 1.5 万kl | 557.1 TJ | 3.0 万kl | 1,151.4 TJ | 2.1 倍 |

| 3. 天然ガスコージェネレーション・燃料電池 | | | | | |
|------------------------|-----------------------------|------------|-----------------------------|------------|--------|
| | 現在導入量 (2014年) | | 導入目標量 (2020年) | | 伸び率 |
| | 設備容量 (発電電力量) | 熱量換算 | 設備容量 (発電電力量) | 熱量換算 | |
| 天然ガスコージェネレーション | 19.6 万kW (102,788 万kWh) | 3,700.4 TJ | 25.7 万kW (135,289 万kWh) | 4,870.4 TJ | 1.3 倍 |
| 燃料電池 | 0.1 万kW (517 万kWh) | 18.6 TJ | 2.8 万kW (12,352 万kWh) | 444.7 TJ | 23.9 倍 |
| 合計 (C) | 19.7 万kW (103,306 万kWh) | 3,719.0 TJ | 28.6 万kW (147,641 万kWh) | 5,315.1 TJ | 1.4 倍 |

| ■合計 | | | | | | |
|-----|-----------------|-----------------------------|-----------------|------------------------------|-------------|-------|
| | 現在導入量 (2014年) | | 導入目標量 (2020年) | | 伸び率 | |
| | 設備容量 (発電電力量) | 熱量換算 | 設備容量 (発電電力量) | 熱量換算 | | |
| 合計 | E = A+B 【再エネ】 | - | 2,246.6 TJ | - | 6,142.3 TJ | 2.7 倍 |
| | F = A+C 【発電】 | 57.6 万kW (150,238 万kWh) | 5,408.6 TJ | 141.9 万kW (286,276 万kWh) | 10,305.9 TJ | 1.9 倍 |
| | G = A+B+C | - | 5,965.6 TJ | - | 11,457.4 TJ | 1.9 倍 |

※FIT 開始前の既設水力分を除く

4. 国に対する提言事項

(1) エネルギー政策の総合的な推進

(原発に依存しない新しいエネルギー社会の構築)

- 安定的な電力供給体制を整備することを前提として、東京電力福島第一原子力発電所の事故の教訓、既設原発の老朽化の進行による廃炉、蓄積する使用済み核燃料の処理問題等を踏まえ、『エネルギー基本計画』に掲げる「原発依存度について可能な限り低減させる」との方針に基づき、原発に相当程度依存する現在のエネルギー政策を出来るだけ早い時期に転換すること。
- また、上記の見直しにあたっては、原発に依存せず、「社会（レジリエンス強化）」「環境（低炭素社会）」「経済（地方創生）」の各側面からの要求をも同時に満たす、持続可能な新しいエネルギー社会の構築に向けて、新たなビジョンやエネルギーミックスを提示するとともに、これに基づき中長期的なエネルギー政策を推進すること。
- 上記の検討にあたっては、地方自治体の意見を十分に踏まえるとともに、国民の理解を得られるよう最大限の努力を払うこと。

(広域的な電力システムの強化)

- 災害リスクに備えた強靱な国土形成を進めるため、地域間連系線等の広域的な電力システムの強化等、エネルギーに係る多様なインフラ整備について、国として主導的な役割を果たし、積極的に取り組むこと。

(2) 省エネルギー・節電の推進

- 省エネ性能に優れた建築物の新設や既存建築物の省エネ改修等に対する支援を充実・強化すること。
- 家庭や企業における省エネルギー・節電を促進するため、HEMSやBEMSなどのエネルギーマネジメントシステム、高効率照明や高効率空調・給湯設備などの省エネ機器等の更なる導入に向けた支援を強化すること。

(3)再生可能エネルギーの導入促進

- 再生可能エネルギーの課題とされている出力の不安定性や高コストに対し、蓄電技術や気象データを用いた発電予測技術の向上、技術開発による高効率化や低コスト化に政策の重点を振り向け、再生可能エネルギーの安定的かつ安価な導入拡大を最大限加速させること。
- 送電網の増強など系統連系対策を強化し、再生可能エネルギーの接続可能量を拡大するために必要な措置を講じること。
- 平成 21 年（2009 年）11 月に開始された住宅用太陽光発電の余剰電力買取制度において、平成 31 年（2019 年）以降、相当数の案件が 10 年の買取期間を順次終えることから、余剰電力を引き続き電力系統で有効活用できる環境整備など適切に対応すること。

(4)エネルギーの効率的な活用の推進

- スマートコミュニティの構築に当たっては、中長期を見据えた取組になるとともに、エネルギー事業者、デベロッパー、メーカー、金融機関など多様な主体が参画することから、プロジェクトの組成から実装までの各段階において、情報提供やマッチング、資金支援など、きめ細かな支援制度の充実を図ること。
- 再生可能エネルギーの余剰電力を貯蔵する手段としてエネルギーセキュリティの向上に資する大規模な水素製造・供給システムの確立に向けた、技術開発・実証を積極的に進めること。

(5)エネルギー関連産業の振興・技術開発の促進

- 本県には電池関連産業をはじめとするエネルギー関連産業が多数集積しており、エネルギー関連の先導的な国家プロジェクトの実証フィールドとして活用するなど、積極的な投資促進等を図ること。

5. ロードマップ

8つの「重点プロジェクト」に基づき、概ね平成32年度（2020年度）までを見据えたプロジェクトごとのロードマップを示します。

なお、平成32年度（2020年度）以降の長期を見据えたロードマップについては、今後の技術開発の進展や国のエネルギー政策の動向、社会経済情勢の変化等を踏まえ、ビジョンの改定時に検討することとします。

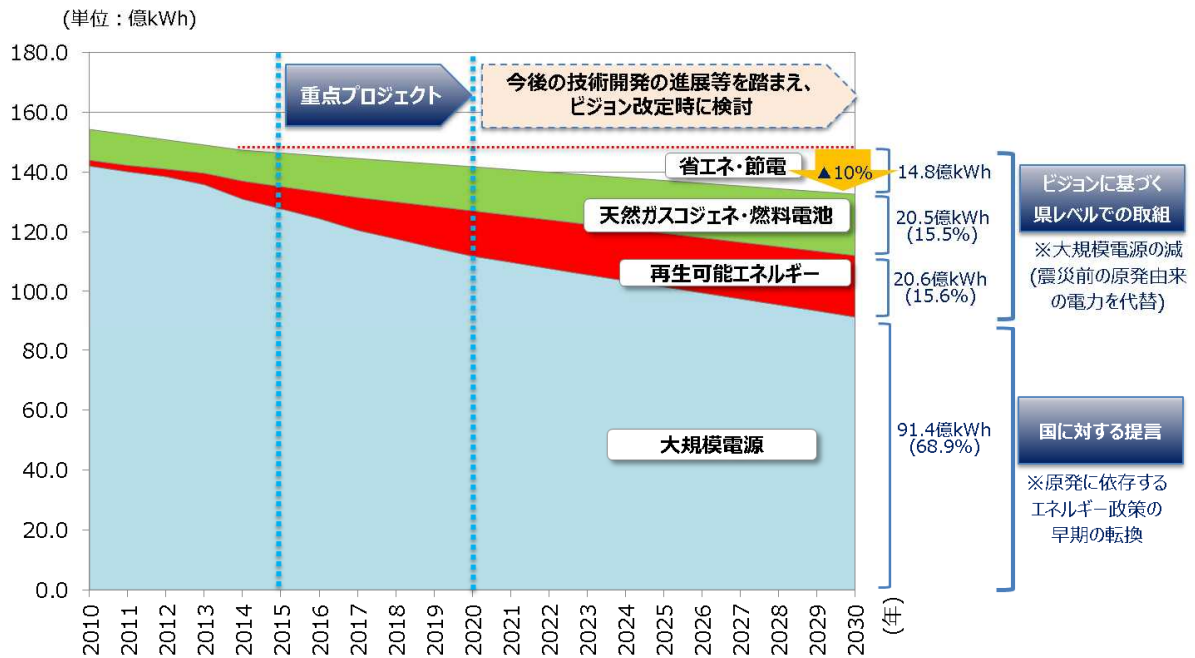


図 3-40 電力供給量の内訳の推移と重点プロジェクトの対象期間

原発に依存しない新しいエネルギー社会の実現に向けて、ビジョンに基づく県レベルで可能な取組として、省エネルギー・節電の推進、再生可能エネルギーの導入促進、エネルギーの効率的な活用の推進、エネルギー関連産業の振興・技術開発の促進など、あらゆる取組を様々な主体との連携・協力のもと総動員することにより、地域主導によるエネルギーシフトに向けたローカル・イノベーションを創出し、東日本大震災前に依存してきた原発由来の電力を代替することを目指します。また、国に対して、原発に相当程度依存する現在のエネルギー政策を出来るだけ早い時期に転換することを求めています。

| | H28 (2016) | H29 (2017) | H30 (2018) | H31 (2019) | H32 (2020) | ~H37 (~2025) | ~H42 (~2030) | | |
|----------------------|---------------|----------------------------------|---------------------------------|----------------------------|---|--------------------------|------------------------|--------------------------|---------------------------------------|
| (1)省エネルギー・節電推進プロジェクト | 国の動向等 | 標準的な新築住宅でZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)実現 | 新築公共建築物等でZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)実現 | 新築住宅・建築物の省エネ基準適合義務化 | LED照明 | 新築住宅の平均でZEH実現 | 新築建築物の平均でZEH実現 | | |
| | | 節電・省エネ行動定着のための普及啓発 | スマート・エコハウスの普及促進(省エネ製品等) | ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)の普及促進 | 「滋賀らしい環境こだわり住宅」の普及促進 省エネルギー住宅設計・施工技術者の育成支援 | スマートウェルネス住宅の普及促進 | 電力消費量削減目標 (2014年度比) | ■ H32年度(2020年度) ▲4.0% | |
| | | 事業者行動計画制度の運用、表彰制度、貢献量評価普及 | 中小企業者向け省エネ事例の普及啓発 | 中小企業者等への省エネ診断の支援 | 中小企業者等による省エネ設備整備の促進 | 省エネルギー相談地域フラットフォーラムの構築検討 | 省エネルギー相談地域フラットフォーラムの構築 | ■ H42年度(2030年度) ▲10% | 産業・業務部門における 省エネルギー・節電の 更なる取組の推進 |
| | | 省エネルギー相談地域フラットフォーラムの構築検討 | 省エネルギー相談地域フラットフォーラムの構築 | ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)の普及促進 | | | | | |
| 家庭部門 | | | | | | | | | |
| 産業・業務部門 | | | | | | | | | |

| | H28 (2016) | H29 (2017) | H30 (2018) | H31 (2019) | H32 (2020) | ~H37 (~2025) | ~H42 (~2030) | |
|------------------------|--------------------------|--------------------------------|---------------|---------------|---------------|-----------------|---|---|
| (2)再生可能エネルギー総合推進プロジェクト | 国の動向等 | 太陽光の発電コスト(2014年：23円/kWh) | | | | | | 7円/kWh |
| | | 太陽光発電の普及促進(太陽光発電、太陽熱利用) | | | | | | 余剰電力買取制度(H21~)の買取期間が順次終了 |
| 太陽光発電 | | スマート・エコハウスの普及促進(太陽光発電、太陽熱利用) | | | | | | 太陽光発電や熱利用の促進に向けた更なる取組の展開 |
| | | 事業所における再生可能エネルギーの導入促進 | | | | | | |
| | | 事業用太陽光発電の立地促進 | | | | | | |
| | | 再生可能エネルギー熱の普及促進 | | | | | | |
| 熱エネルギー利用 | | 下水熱利用の促進(ボイラールーム活用、流域下水道での利用等) | | | | | | 太陽光発電導入目標 ■ H32年度(2020年度) 112.1万kW ■ H42年度(2030年度) 148.9万kW |
| | | | | | | | | |
| (3)小水力利用促進プロジェクト | 姉川ダム水力発電 | 工事 | | | | | | 小水力利用の促進に向けた更なる取組の展開 |
| | 農業農村地域 | 発電開始 (湖北・姉川沿岸地区) | | | | | | |
| | 適地・導入検討 | 他地区での検討・推進 | | | | | | |
| | | 管水路用マイクロ水力発電の導入検討(適地があれば推進) | | | | | | |
| | | 関係機関と連携した小水力発電事業の検討(適地があれば推進) | | | | | | |
| 地域主導型小水力 | 地域主導による小水力発電事業の推進 | | | | | | 小水力発電導入目標 ■ H32年度(2020年度) 0.1万kW ■ H42年度(2030年度) 1.0万kW | |
| | 身近なエネルギー普及啓発、ピコ水力発電の導入支援 | | | | | | | |

| | H28 (2016) | H29 (2017) | H30 (2018) | H31 (2019) | H32 (2020) | ~H37 (~2025) | ~H42 (~2030) |
|----------------------------|---|--|---------------------------------------|-------------------------|---------------|----------------------------|---|
| (4)バイオマス 利用促進プロ ジェクト | 木質バイオマスモデル 地域形成 木質バイオマスエネ ルギーの利用促進 | FS調査 木質バイオマス搬出利用・木の駅プロジェクトの推進 木質バイオマス燃焼機器の利用促進 | 計画 森の資源研究開発の推進 | 実装化 木質バイオマス燃焼機器の利用促進 | 実装化 | バイオマス利用の促進に 向けた更なる取組の展開 | バイオマス発電導入目標 ■ H32年度(2020年度) 1.0万kW ■ H42年度(2030年度) 1.8万kW |
| | ウツト系バイオマス の推進 その他 | FS調査 市町等の一般廃棄物焼却施設の熱利用等の促進 農業用ハウスでのバイオマスエネルギーの利活用促進 下水汚泥の燃料化の推進 | 計画 市町等の一般廃棄物焼却施設の熱利用等の促進 | 実装化 | 実装化 | | |
| (5)エネルギー自 治推進プロジェ クト | 公共施設等のレジエ ンス対応 エネルギー自治推進 | GN基金 活用 防災拠点等における非常用電源等の導入推進 | | | | エネルギー自治推進に向け 更なる取組の展開 | 地域主導による再生可能 エネルギー創出支援件数 ■ H32年度(2020年度) 8件(H26) → 24件 |
| | 人材育成 エネルギー教育 | RREC 活用 エネルギー人材の育成 新船「うみのこ」建造 (設計・建造工事) | 地域主導による取組の系る普及啓発 地域主導によるエネルギー自治の促進 | エネルギー教育の推進 | エネルギー教育 | | |

| | H28 (2016) | H29 (2017) | H30 (2018) | H31 (2019) | H32 (2020) | ~H37 (~2025) | ~H42 (~2030) | |
|------------------------|--|---|--|--|--|--|---|--|
| (6) エネルギー高度利用推進プロジェクト | <p>国の動向等</p> <p>スマート・エコハウスの普及促進(コージェネ、燃料電池、蓄電池等)</p> <p>事業所における天然ガスコージェネレーションの導入促進</p> <p>電気需要の「見える化」(平準化)の推進(EMS、蓄電池)</p> <p>次世代自動車の普及促進</p> <p>水素エネルギー</p> | <p>業務・産業用燃料電池市場投入</p> <p>スマート・エコハウスの普及促進(コージェネ、燃料電池、蓄電池等)</p> <p>事業所における天然ガスコージェネレーションの導入促進</p> <p>業務・産業用燃料電池の普及促進</p> <p>電気需要の「見える化」(平準化)の推進(EMS、蓄電池)</p> <p>次世代自動車の普及促進</p> <p>超小型モビリティを活用したまちづくりの推進</p> <p>研究会での情報共有</p> | <p>業務・産業用燃料電池市場投入</p> <p>スマート・エコハウスの普及促進(コージェネ、燃料電池、蓄電池等)</p> <p>事業所における天然ガスコージェネレーションの導入促進</p> <p>業務・産業用燃料電池の普及促進</p> <p>電気需要の「見える化」(平準化)の推進(EMS、蓄電池)</p> <p>次世代自動車の普及促進</p> <p>超小型モビリティを活用したまちづくりの推進</p> <p>研究会での情報共有</p> <p>プロジェクトの組成に向けた支援</p> | <p>H31 (2019)</p> <p>スマート・エコハウスの普及促進(コージェネ、燃料電池、蓄電池等)</p> <p>事業所における天然ガスコージェネレーションの導入促進</p> <p>業務・産業用燃料電池の普及促進</p> <p>電気需要の「見える化」(平準化)の推進(EMS、蓄電池)</p> <p>次世代自動車の普及促進</p> <p>超小型モビリティを活用したまちづくりの推進</p> <p>研究会での情報共有</p> <p>プロジェクトの組成に向けた支援</p> | <p>H32 (2020)</p> <p>スマート・エコハウスの普及促進(コージェネ、燃料電池、蓄電池等)</p> <p>事業所における天然ガスコージェネレーションの導入促進</p> <p>業務・産業用燃料電池の普及促進</p> <p>電気需要の「見える化」(平準化)の推進(EMS、蓄電池)</p> <p>次世代自動車の普及促進</p> <p>超小型モビリティを活用したまちづくりの推進</p> <p>研究会での情報共有</p> <p>プロジェクトの組成に向けた支援</p> | <p>H32 (2020)</p> <p>家庭用燃料電池: 140万台普及</p> | <p>~H37 (2025)</p> <p>分散型エネルギーの推進に向けた更なる取組の展開</p> <p>天然ガスコージェネレーション・燃料電池導入目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ H32年度(2020年度) 28.6万kW ■ H42年度(2030年度) 40.0万kW | <p>~H42 (2030)</p> <p>家庭用燃料電池: 530万台普及</p> |
| (7) スマートコミュニティ推進プロジェクト | <p>総合的な推進</p> <p>先導的モデル形成(工業団地)</p> <p>先導的モデル形成(市街地等)</p> <p>先導的モデル形成(広域型)</p> | <p>スマートコミュニティ構築に向けた総合的な取組推進</p> <p>実装化(熱融通)</p> <p>計画</p> <p>FS調査</p> | <p>スマートコミュニティ構築に向けた総合的な取組推進</p> <p>実装化</p> <p>計画</p> <p>FS調査</p> | <p>スマートコミュニティ構築に向けた総合的な取組推進</p> <p>実装化</p> <p>計画</p> <p>FS調査</p> | <p>スマートコミュニティ構築に向けた総合的な取組推進</p> <p>実装化</p> <p>計画</p> <p>FS調査</p> | <p>スマートコミュニティ構築に向けた総合的な取組推進</p> <p>実装化</p> <p>計画</p> <p>FS調査</p> | <p>スマートコミュニティの推進に向けた更なる取組の展開</p> <p>新しいエネルギー社会の先導的な取組モデルの形成件数</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ H32年度(2020年度) 0件(H26) → 5件 | <p>スマートコミュニティの推進に向けた更なる取組の展開</p> <p>新しいエネルギー社会の先導的な取組モデルの形成件数</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ H32年度(2020年度) 0件(H26) → 5件 |

| | H28 (2016) | H29 (2017) | H30 (2018) | H31 (2019) | H32 (2020) | ~H37 (~2025) | ~H42 (~2030) | |
|------------------------------|----------------------|------------------------|--------------------|--------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|
| (8)産業振興・ 技術開発促進 プロジェクト | 県内企業支援 | 中小企業者等のエネルギー関連技術開発への支援 | | | | エネルギー関連の産業振興に 向けた更なる取組の展開 | エネルギー関連の産業振興に 向けた更なる取組の展開 | |
| | | 異分野・異業種連携イノベーションの創出支援 | | | | | | |
| | | 戦略的な環境ビジネスの育成 | | | | | | |
| | | 環境関連企業の国内外の事業展開への支援 | | | | | | |
| | | 戦略的な企業誘致の推進 | | | | | | |
| | 職業訓練(省エネ) " (創エネ) | 試行実施 | | 訓練開始(訓練カリキュラムへの組み込み) | | | エネルギー関連の技術開発に 向けた更なる取組の展開 | エネルギー関連の技術開発に 向けた更なる取組の展開 |
| | | 調査検討 | 施設整備 指導員養成 | 訓練開始 | | | | |
| | 工業技術センター 研究開発 | | | 総合的なエネルギー関連研究開発の推進 | | | エネルギー関連の技術開発に 向けた更なる取組の展開 | エネルギー関連の技術開発に 向けた更なる取組の展開 |
| | | | | 地域の特性を活かしたエネルギー関連技術開発の推進 | | | | |
| | | | | エネルギー技術開発オープンイノベーションの促進 | | | | |
| | | | 国の研究機関と連携した研究開発の促進 | | | | | |
| スマートグリッド開発 | JSTサテライトクラスター | | | | スマートグリッドなど エネルギーシステムの開発推進 | | | |

IV 推進にあたって

1. 推進体制・進行管理

(1) 推進体制

- ビジョンに掲げる「新しいエネルギー社会」の実現に向けて、県民総ぐるみで連携・協力しながら取組を展開していくため、県内における産学官金民で構成する総合的な推進体制を整備し、各種プロジェクト等を進行管理するとともに、県民の参画や多様な主体との協働による取組の一層の強化を図ります。

(2) 庁内における連携体制

- 知事を本部長とする「滋賀県低炭素社会づくり・エネルギー政策推進本部」において施策を推進するとともに、目標等の進行管理を行い、施策展開に活かしていきます。
- 国の規制緩和に係る動向や事業者の意向等を踏まえながら、国に対する政策提案や全国知事会等を通じて規制緩和を要望するとともに、県による規制緩和についても随時検討を進めます。
- 大規模太陽光発電事業等の開発事業について、県土の適正な利用を図る観点から、全庁的な体制の下で引き続き必要な調整を行います。

(3) 県・市町の連携体制

- 新しいエネルギー社会づくりを効果的に推進するため、県と県内市町および県内市町相互における十分な情報共有・連携を確保する観点から、再生可能エネルギーをはじめとするエネルギーに関する動向や先進的な取組事例、推進にあたっての諸課題（太陽光発電設備の設置に伴う景観等への影響など）について、県および県内市町の関係課が情報交換・意見交換する場を定期的に設けるなど、連携体制を強化します。

(4) 関西広域連合との連携

- 関西広域連合との連携のもと、住民や事業者に対する啓発事業など広域的な取組を進めます。

2. 各主体（県民、事業者、各種団体等）に期待される取組例

(1) 県民に期待される取組例

- 省エネ型ライフスタイルの定着、省エネ性能が高い設備・機器の使用、省エネ性能が高い住宅の選択
- 住宅用太陽光発電設備の設置などによる再生可能エネルギーの利用
- 家庭用燃料電池や蓄電池の設置など、分散型エネルギー社会の構築に資する新たな技術によるエネルギー利用

- 電気自動車など次世代自動車の選択
- エネルギーに関する学習の実践

(2)事業者に期待される取組例

- 省エネ型ビジネススタイルの一層の定着、省エネ性能が高い設備・機器の使用および技術開発、省エネ性能が高い建物の建築
- 事業所での太陽光発電設備の設置などによる再生可能エネルギーの利用
- 太陽光発電などの再生可能エネルギーを利用した発電事業への取組
- 天然ガスコージェネレーションや燃料電池、スマートグリッド技術など、分散型エネルギー社会の構築に資する新たなエネルギー技術の研究や普及、導入の取組
- 電気自動車など次世代自動車の選択
- 災害時における非常用電源の地域への供給
- 再生可能エネルギー活用技術などの低炭素化技術の開発、製品の高付加価値化、エネルギー関連分野への進出

(3)エネルギー事業者に期待される取組例

- 太陽光発電等の導入拡大に向けた強靱な電力系統の形成および系統電力の品質確保
- 再生可能エネルギーによる発電量の予測技術の高精度化など最適な需給制御技術の研究開発
- スマートコミュニティの構築など、地域における最適なエネルギー利用を目指す実証的な取組の推進

(4)各種団体に期待される取組例

- 省エネ型ライフスタイル・ビジネススタイルの定着等に向けた普及啓発
- 再生可能エネルギーの導入促進に向けた普及啓発
- 地域資源を活用した再生可能エネルギーの創出に向けた取組の実践
- 電気自動車など次世代自動車の選択
- エネルギーに関する学習の推進

資料編

1. 滋賀県新しいエネルギー社会づくりを考える懇話会

(1) 委員名簿

【委員】

[敬称略、五十音順]

| | 氏名 | 団体・所属、役職等 |
|---|---------------------|-------------------------------------|
| | いはら ともひと 伊原 智人 | Green Earth Institute株式会社 代表取締役 |
| | えだひろ じゅんこ 枝廣 淳子 | 幸せ経済社会研究所 所長 東京都市大学環境学部 教授 |
| | おおわだ じゅんこ 大和田 順子 | 一般社団法人ロハス・ビジネス・アライアンス 共同代表 |
| | きっかわ たけお 橋川 武郎 | 東京理科大学大学院イノベーション研究科 教授 |
| ◎ | つちや はるき 槌屋 治紀 | 株式会社システム技術研究所 所長 京都エコエネルギー学院 学院長 |
| | やすだ まさし 安田 昌司 | 滋賀県立大学産学連携センター 教授 |
| ○ | よこやま りゅういち 横山 隆一 | 早稲田大学名誉教授 |

◎座長 ○副座長

【オブザーバー】

| | |
|--|----------|
| | 関西電力株式会社 |
| | 大阪ガス株式会社 |
| | 近畿経済産業局 |

(2)審議経過

| 日時 | 議事内容 | |
|-----------|------|--------------------------|
| 平成27年8月4日 | 第1回 | 滋賀県のエネルギー政策と県内での取組事例について |

| | | |
|-------------|-----|--|
| 平成27年11月20日 | 第2回 | しがエネルギービジョン(素案)について ※第4回「しがスマートエネルギー推進会議」との合同会議 |
|-------------|-----|--|

| | | |
|------------|-----|---|
| 平成28年1月14日 | 第3回 | しがエネルギービジョン(案)について ※第5回「しがスマートエネルギー推進会議」との合同会議 |
|------------|-----|---|

[参考] しがスマートエネルギー推進会議

| 構成団体 | 推薦企業・団体 |
|--------------------|-----------------|
| 滋賀県商工会議所連合会 | 八日市商工会議所 |
| 滋賀県商工会連合会 | 甲西陸運株式会社 |
| 滋賀県中小企業団体中央会 | 滋賀特機株式会社 |
| 滋賀経済同友会 | |
| 一般社団法人 滋賀経済産業協会 | いぶきグリーンエナジー株式会社 |
| 公益財団法人 滋賀県産業支援プラザ | |
| 関西電力株式会社 | |
| 大阪ガス株式会社 | |
| 公立大学法人 滋賀県立大学 | |
| 株式会社滋賀銀行 | |
| 滋賀県地球温暖化防止活動推進センター | |
| 生活協同組合コープしが | |
| J A 滋賀中央会 | |
| 滋賀県土地改良事業団体連合会 | |
| 滋賀県林業協会 | |
| 近畿経済産業局 | |

2. 各種イベント等での周知・意見交換の実施状況

①各種団体への周知・意見交換

| 日時 | 内容(主催者) |
|-------------|--|
| 平成27年6月18日 | 滋賀県電力利用合理化委員会セミナー(滋賀県電力利用合理化委員会) |
| 平成27年7月14日 | エネルギーシンポジウム(一般社団法人 滋賀経済産業協会) |
| 平成27年7月27日 | 第2回滋賀経済団体連合会との連絡調整会議(滋賀県) |
| 平成27年9月5日 | 地域資源・エネルギー コーディネーター育成プログラム/キックオフ・フォーラム 「私からはじめる! 地域資源を活かしたエネルギー創造と活用」 (滋賀県立大学) |
| 平成27年9月11日 | 地域エネルギー研究会(NPO法人環人ネット内) |
| 平成27年10月21日 | びわ湖環境ビジネスメッセ2015セミナー 「新しいエネルギー社会の実現に向けたイノベーション」(滋賀県) |
| 平成27年10月22日 | 滋賀県環境産業創造会議幹事会(滋賀県) |
| 平成27年10月23日 | グリーン購入フォーラム2015in滋賀 ~地域からエネルギーの未来を創る~ (びわ湖環境ビジネスメッセ実行委員会・一般社団法人滋賀グリーン購入ネットワーク) |
| 平成27年10月31日 | 地域資源を活かしたエネルギーフォーラム(水源の里再エネ実行委員会) |
| 平成27年11月9日 | 近畿バイオマス産業セミナーin滋賀(近畿経済産業局) |
| 平成27年11月25日 | 第4回滋賀経済団体連合会との連絡調整会議(滋賀県) |
| 平成27年11月25日 | 再生可能エネルギー技術革新セミナー(滋賀県工業技術総合センター) |
| 平成27年12月11日 | 近江環人地域再生学座(滋賀県立大学 地域共生センター) |
| 平成27年12月16日 | 第11回CO ₂ 削減シンポジウム(一般社団法人 滋賀経済産業協会) |

②市町への周知・意見交換

| 日時 | 内容 |
|-------------|------------------|
| 平成27年8月28日 | 第15回県市町エネルギー研究会 |
| 平成27年11月26日 | 第16回県市町エネルギー研究会 |
| 平成27年12月22日 | 市町職員長期実地研修生等合同研修 |

③テレビ放映による周知・意見交換

| 日時 | 内容 |
|-------------|-------------------------------------|
| 平成27年10月10日 | テレビ滋賀プラスワン「新しいエネルギー社会づくり」 ※びわ湖放送 |
| 平成27年10月12日 | 県政テレビ対話「三日月知事と考える~エネルギーの未来~」 ※びわ湖放送 |